

全般的説明

IG package は、FHIR の仕様にもとづく計算機処理可能な FHIR 定義や仕様記述ファイル(リソースファイル群)の集合体である。

eReferral IG package は、診療情報提供書 FHIR 記述仕様の StructureDefinition, CodeSystem, ValueSet などの定義系リソースの json 形式ファイルを、FHIR package 仕様(<https://registry.fhir.org/learn>)にしたがった mpm package 形式のファイルパッケージで、tgz (tar + gz)圧縮されている。

FHIR のリソースファイルのうち profile を定義する StructureDefinition リソースの記述においては、FHIR のリソース自身の使い方を定義した profile やその profile からさらに派生して制約を記述した profile には、FHIR 仕様の上では、その派生元の親 profile との差分だけを記述した形式(differential 形式)と、親 profile の記述をすべて含んだ上でそれに差分を反映した形式(snapshot 形式)の2形式が存在する。アプリケーションソフトウェアが前者の differential 形式のファイルからなる package を使用する際には、その親 profile すべての集合ファイル(すなわち親仕様の package)が同時に必要になる。一方、後者の snapshot 形式であれば、それが作成される際にその時点での親仕様の package をすべて取り込んで反映した形式となっているので、使用時点では親の profile package を必要としないため、snapshot 形式の package さえあれば使用できる。

ダウンロードできるパッケージ

以降の記載で 0.9.x の x の部分はそのときの最新バージョン数字(2 とか 3 とか)に置き換えてください。

eReferral-0.9.x-diff.tgz : 診療情報提供書 FHIR 記述仕様の differential 形式の package

jp-core.r4 v1.1.1 および hl7fhir.r4 package に依存した差分パッケージ

eReferral-0.9.x-snap.tgz : 診療情報提供書 FHIR 記述仕様の differential 形式の package

jp-core.r4 v1.1.1 および hl7fhir.r4 package の必要な profile をすべて含む snapshot 形式の package

おもな使いかた:

1) 作成した FHIR インスタンス(FHIR 記述仕様に準拠して記述された json 形式のデータファイル)が profile に準拠しているかどうかを validation する場合。

公式 validator : https://github.com/hapifhir/org.hl7.fhir.core/releases/latest/download/validator_cli.jar よりダウンロードした java jar ファイルを用いて以下のように実行する。この場合、snapshot 形式のパッケージを指定する。

snapshot 形式のパッケージはダウンロード後に `jp-ereferral-0.9.x-snap.tgz` から `jp-ereferral#0.9.x.tgz` に名前を変更してください(ハイフンを#に変更)

```
java -jar validator_cli.jar 対象インスタンスファイル.json
  -display-issues-are-warnings
  -ig jp-ereferral#0.9.x.tgz
  -tx https://tx.jpffhir.jp:8081
```

*退院時サマリーを検証したい場合には、`-ig jp-ereferral#0.9.x.tgz` の代わりに `-ig jp-edissummary-0.9.x-snap.tgz` を指定する。また、診療情報提供書内から退院時サマリーも参照・包含している文書の検証では、次のように両方のオプションを指定すること。

```
-ig jp-ereferral#0.9.x.tgz -ig jp-edissummary-0.9.x-snap.tgz
```

この場合の対象インスタンスファイル内では `meta.profile` 要素に、このインスタンスが準拠する `profile` を url で指定し、`url` であることが必要で、その `url` で識別される `StructureDefinition` ファイルが `snapshot` パッケージから読み出されて `validation` に使用される。

Validator V6.06 以降では、`-display-issues-are-warnings` のオプションが追加が必要になった。これがないと表示名が日本語となっている US 版コードシステムの `code` の使用時にエラー扱いとなる。

もし、対象インスタンスファイル内で `meta.profile` 要素が記述されていない場合には、コマンドラインで直接 `validation` に使用する `profile` の `url` を以下のように指定することもできる。

```
java -jar validator_cli.jar 対象インスタンスファイル.json
  -profile 準拠させたい profile の url 識別名
  -ig jp-ereferral#0.9.x.tgz
  -tx https://tx.jpfhir.jp:8081
```

オプションの詳細は `java -jar validator_cli.jar -?` で出力される。

また詳細は、<https://confluence.hl7.org/display/FHIR/Using+the+FHIR+Validator> を参照するとよい。

オプションのうち、`-tx https://tx.jpfhir.jp:8081` はインスタンスで使用されるコード (`CodeSystem` や `ValueSet`) を格納した FHIR Terminology サーバの URL であり、日本医療情報学会 FHIR 実装検討 WG がボランティアに稼働されているもので、`jp-core.r4 v1.1` をサポートしている。メンテナンスでアクセスできない場合もある。`jp-core` のコードや `ValueSet` を `validation` で必要としないのであれば、このオプションは省略可能で、省略した場合にはデフォルトで、`-tx https://tx.fhir.org/r4` を指定したことになる。

パッケージの内容

`eReferral-0.9.x-diff.tgz` または `eReferral-0.9.x-snap.tgz` の内容はこの圧縮ファイルを解凍すれば `package` フォルダとして得られる。